

(5) 工事の効率性向上による長期的コストの低減
 V②工事情報の電子化

維持管理業務の電子化 (CALSの実証実験)

阪神高速道路公団 保全情報管理システム運用業務

【施策の概要】

阪神高速道路公団では、日々の安全走行のため日常点検を実施しており、補修については迅速な工事を行っている。従来、保全情報管理システムの一つのサブシステムである日常点検・保守管理システムにおいて点検結果をデータベース化することにより、迅速な補修工事が行われるよう業務支援を行ってきた。今回、保全部門におけるCALS実証実験として、点検データの外部業者による入力とともに、公団維持事務所内での点検判定結果ならびに処置方法の入力、および外部業者への維持工事の作業指示についてシステム化を行い、業務実施の効率化ならびに文書類削減等の省力化を図った。

【施策のポイント】

- ・システム化により業者への作業指示書を自動作成できるようになったため、担当者の負担が軽減される。
- ・報告書が電子化されたことにより省スペース化が進む。
- ・情報伝達の省力化により、点検結果報告の迅速化が図れる。

【施策のイメージ図】

